

## I. 建学の精神・大学の基本理念、使命・目的、大学の個性・特色

### 1. 花園大学の建学の精神・基本理念

本学は 1872(明治 5)年、臨濟宗の宗門後継者の教育機関として京都の妙心寺の中に創設された「般若林」をその起源とする。般若林は、臨濟宗の伝統的な後継者養成機関である僧堂における禅の実践修行の前に、「仏教学」「漢文学」「臨濟宗学」等の学問を教授する教育機関として出発した。

この「般若林」は、その後幾多の変遷を経て、1949(昭和 24)年に花園大学(仏教学部仏教学科)となり、1966(昭和 41)年には、文学部に仏教学科、社会福祉学科、史学科、国文学科の 4 学科を設置して、宗門後継者以外の多くの一般家庭の学生を受け入れることとなった。

本学は、1872(明治 5)年から 1966(昭和 41)年までの 94 年間は、名実共に宗門後継者の教育機関として機能し、その役割を果たしてきた。それは、臨濟宗・黄檗宗の僧侶となるため、禅僧としての僧堂修行の前段階として、一般的な教養や専門的な仏教の学問を身に付けることであった。

### 2. 花園大学の使命・目的

新制花園大学の発足とともに制定された「花園大学学則」第 1 章「大学の目的綱領」の第 1 条には、「本学は高等の知識を授け、専門の学術を教授研究し、仏教精神によって人格を陶冶し、人類文化に貢献する人物の養成を目的とする。」、第 2 条には、「本学は前条に即し、実践禅学を開設する。」と明記している。

その第 1 章第 1 条に記すとおり、本学の使命と目的は一般の大学と同様に、学生に専門的な知識を教授することはいうまでもなく、加えて仏教精神を通じ、人格の向上を目指して、社会に貢献できる学生を養成することにある。本学でいう仏教精神とは設立母体である妙心寺派の宗旨である臨濟宗の根幹、臨濟禅を標榜するものである。一途に衆生が阿弥陀佛に頼って成仏できる他力本願と異なり、臨濟禅は教理經典にとられることなく、各人が自力で悟ることを第一義としている。その諦観は禅語として伝わっているが、禅僧達は一切の制約から解放され、自己をみつめることがなされている。

このように、臨濟禅の考えに基づき、学生一人一人が自覚することを本学の教育上の根本に置いている。すなわち自問自答する学生を育てることが本学の目的といえる。このことは、「花園大学校歌」の冒頭に「自覚の曙光あざやかに」という歌詞を掲げていることでもわかる。ようするに本学では、深く自己自身の置かれている立場を内省し、将来の進むべき方向を考える学生が育つことを希求しているといえよう。

### 3. 花園大学の個性・特色

今日の花園大学は、文学部 3 学科、社会福祉学部 2 学科、大学院文学研究科 3 専攻、社会福祉学研究科 1 専攻という体制の大学となっている。この体制下における建学の精神の具体的な有り様は、学部学生全員が必修として履修する「基礎禅学」にある。これは、他の何れの大学にも例を見ない本学独自の「臨濟禅による禅的人間教育」で

ある。これは、世界で唯一、本学のみが実践している教育であるといつてよい。また、本学の学長は、「臨済禅による禅的人間教育」の実践者として位置付けられている。本学の「学長推薦規程」第2条には、「学長候補者の資格は、臨済宗に僧籍を有する者で、師家分上の者または学徳・識見ともに優れた者の中から推薦する。」となっており、学長として推薦される者は、臨済宗の僧籍を持つ者という基本条件のうえに、更に師家分上の者または学徳・識見ともに優れた者という補足条件が課せられている。これに基づいて本学は創立以来、臨済宗の伝統的継承者（これを師家分上の者という）が学長として推戴されてきた。これは、学長が大学の建学の精神の体現者であり、「臨済禅による禅的人間教育」の推進者として期待されていることを意味している。

一方、本学は、他大学が京都市内から周辺部へ移転する中で、昭和52（1977）年に京都市右京区花園木辻北町から、中心部に近い現在の中京区西ノ京壺ノ内町に移転した。4年制大学で唯一、京都の中心である中京に存在する大学であり、また古代平安京内に全校地がすっぽりと入る希有の大学である。

そこで他大学に先がけて京都学を提唱してきた。周知の通り、延暦13（794）年に平安京が建設されて以降、明治元（1868）年に明治政府が成立するまで、1000年以上も京都は首都であったが、その間、政治・文化・宗教等の面で、日本の歴史上にしばしば登場した。そこで京都学講座では学科を越え、文学部中心に取り組み、国際禅学科は宗教と禅文化、史学科は古代・中世・近現代史上別の変遷、国文学科は上代・中古・近世文学に関する科目を開講している。

学内での開講に留まらず、京都市内大学の参加するキャンパスプラザ京都（財団法人大学コンソーシアム京都）で本学が主宰する京都学総論（京都各論 2）を設けている。この講義は本学の教員はいうに及ばず、学外の著名な各大学の研究者、ジャーナリスト等がそれぞれの専門分野から講義し、キャンパスプラザ京都で実施される各大学開講の京都学関連科目を総括することを目的としたものとなっている。

本学は臨済禅を探求する世界で唯一の大学であるが、禅 = ZEN はアメリカを中心とし、欧米諸国において注目度は高い。それに即応するために、昭和61（1986）年開設した国際禅学研究所は世界に禅に関する情報発信基地としての役割が大きいといえる。本研究所では平成5（1995）年から電子化された禅語のデジタルデータ「電子達磨」を国内外に公開し、現在リニューアルして「禅学総合資料庫・電子達磨#2」を情報提供している。世界中の研究者がキーワードで検索すれば、版本や写本の該当部分にリンクすることができる。

本学には京都の宗門大学で初めての博物館相当施設である花園大学歴史博物館を平成12（2000）年に開館した。この博物館は本学の調査・研究活動によって収集された史資料をもとに、常設展示として、考古学部門、民俗学部門、美術・禅文化部門、歴史学・典籍部門別に設けている。また年二回、特別展示を実施し、博物館学芸員資格取得のための館園実習の場として利用すると共に、市民に公開し、生涯学習の機会を設けている。

このように学校教育に留まらず、本学では生涯学習（社会学習）を通じて社会貢献を目指しているが、上述した博物館活動の他、各種公開講演会等を開催している。毎年定期的に、前に触れた京都学講座、著名なミステリ作家のパネルディスカッション

によるミステリ講座、社会的に注目を集めている人物を招聘しての公開講演会、また各地で主に学長による花園大学公開講演会を実施している。

人権教育研究センターを設けていることも本学の特長といえよう。建学の仏教精神では人間の尊厳を重んじることはいうまでもない。本センターは人権・差別問題を探求し、差別的な考えを社会から一掃するための機関として設けた。教員と学生が合同で行う机上の勉強会というに及ばず、フィールドワークを通じて検討するようにしている。なお、他大学でもこれに類する機関を設けているが、本センターは定期的に研究・啓発を目的とする数種の出版物を持つことで他の追従を許さない。

社会福祉学部は昭和 39（1964）年に仏教福祉学科としてスタートしたが、約 40 年の歴史を有するため、福祉施設に多くの卒業生を送ってきた。仏教学部から文学部社会福祉学科、そして社会福祉学部社会福祉学科と改編し、平成 14（2002）年、同学部に福祉心理学科（現在、臨床心理学科と名称変更）を増設した。その心理学を研究する大学生のために臨床心理士養成課程を設けたが、そのために心理カウンセリングセンターを創設した。本センターは大学院生の実習の場であると共に、学内外の相談を受けている。その相談者は京都市教育委員会と提携して市内小・中学校等の学童と保護者、また一般企業従事者が対象である。